

化石レプリカ作り ～地質標本館 開館25周年記念イベントにて～

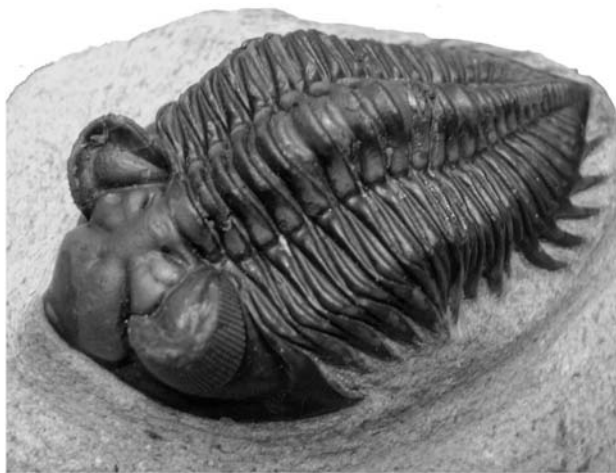
井川 敏恵¹⁾・利光 誠一¹⁾

化石レプリカを作る体験学習会は、地質標本館の定番イベント「自分で作ろう!! 化石レプリカ」として1998年から年2回春と秋に開催され、2005年秋で第15回を迎えました。この体験学習会では、これまでアンモナイト、イノセラムス、カブトガニ、ウミサソリ、メタセコイアなど、様々な時代の、様々な動植物が原標本として選ばれてきました。2005年10月29日(土)の開館25周年記念イベントでは、これまでの集大成ということもあって、「自分で作ろう!! 化石レプリカ」でのアンケートで、作製したいレプリカの上位にランキングしてきたアンモナイト類と三葉虫が原化石標本として使用されました(第1図)。

アンモナイト類は、古生代デボン紀(約4億年前)に出現し、中生代白亜期末(約6,500万年前)に絶滅した頭足類(イカ・タコ・オウムガイの仲間)の一つです。

その生活様式は、現在も海で生きているオウムガイに似ていたと考えられています。アンモナイト類の化石は日本では「菊石」という名でも呼ばれ、昔から親しまれてきました。この記念イベントで使用されたアンモナイト類は「第10回 自分で作ろう!! 化石レプリカ」でも登場した化石(中島ほか, 2003)で、ジュラ紀前期(約1億8,000万年～2億年前)の化石です。殻の半分は母岩とくっついており(第1図-a)、化石が岩石の中から取り出されたものであることが観察できます。

三葉虫は、古生代カンブリア紀前期(5億2,000万年以上前)に出現し、ペルム紀後期(約2億4,500万年前)に絶滅した節足動物の一つです。三葉虫は古生代の前期には大繁栄していましたが、魚類の発展とともに次第に衰退していきました。イベントで使用された三葉虫化石は砂岩の中から掘り出されたもので、



第1図 地質標本館開館25周年記念イベントのレプリカ作りで使用した2種類の前標本。a.英国ヨークシャー産、中生代ジュラ紀前期のアンモナイト類(*Hildoceras subblevisoni*(Fucini):GSJ F16141)。化石サイズ直径約6.5cm×5.0cm、標本サイズ直径約8.3cm×7.7cm。b.モロッコ産、古生代デボン紀前期の三葉虫(*Treveropyge prorotundifrons*(Richter et Richter):GSJ F16792)。化石サイズ長さ約5.8cm。

1) 産総研 地質情報研究部門

キーワード:地質標本館,開館25周年記念イベント,化石レプリカ,石膏模型,アンモナイト類,三葉虫



第2図 複眼シートを手にする参加者。三葉虫はこんな風な世界を見ていたのでしょうか？



第3図 石膏の粉と水をよく混ぜ合わせたものを化石の型に流し込む様子。鮮やかな手さばきです。

くっきり飛び出した複眼が印象的です(第1図-b)。三葉虫のレプリカを作った方、レプリカにも複眼のブツブツがはっきり見えると思いますので、よく観察してみてください。

化石レプリカ作りは10時に開始され、その後30分ごとに8～10人を目安に計10回行われました。レプリカ作製を希望する方にはまず地質標本館入り口の受付で記名してもらい、アンモナイトと三葉虫どちらの化石レプリカを作りたいか、そして何時から作製したいかを選択していただきました。時間が来たら作業部屋に入って席についてもらい、各机に配置されたスタッフから化石の説明を受けます(第2図)。化石が生きていた時代の説明やどんな生態をとっていたかなどを理解してもらったら、机の上に用意された道具や材料を使って化石レプリカ作製に取り組んでもらいました(第3図)。

当日は開館前から列ができるほどの賑わいで、その為開館時刻の9時半を待たずしてオープンしました。地質標本館のオープンと同時に化石レプリカ作りと石割りの受付が始まり、化石レプリカのテーブルでは10名以上の方が一気に受付を済ませました。10時開始の初回分はすぐに定員を越してしまい、2回目以降もこのような調子で、午前中は参加者でごった返していました。それも14時を過ぎたあたりからはまばらになり、午後に来館された方の中には、化石レプリカを

2種類とも作製された方がいました。

開館25周年記念イベント当日の入館者数は229名で、そのうちのべ87名の方が化石レプリカ作りをされました。内訳はアンモナイト46名、三葉虫41名です。化石レプリカを作った方の半分近くはつくば市在住の方で、そのほか茨城県内の広い範囲から、中には千葉県、埼玉県、栃木県からもお越しいただきました。

この化石レプリカ作りのコーナーは、主に地質情報研究部門の職員と博物館実習で来館中の学生らによって運営されました。博物館実習生の後藤真希さん、船越都生さん(ともに茨城大)、塚田順子さん、原由香里さん、吉田 薫さん、吉原友美さん(以上、川村学園女子大)、青木慶子さん(工学院大)、川田若菜さん(常磐大)にはこの場をかりてお礼申し上げます。

引用文献

中島 礼・奥山康子・利光誠一・坂野靖行・中澤 努・豊 遙秋・兼子尚知・熊田みさ子・谷田部信郎・新津節子・春名 誠・野田 篤(2003): 標本館だよりNo.67, 第10回 自分で作ろう!! 化石レプリカ-中生代ジュラ紀「アンモナイト」-, 地質ニュース, no.587, p.64-65.

IGAWA Toshie and TOSHIMITSU Seiichi (2006): Making a fossil replica on the 25th anniversary of the Geological Museum.

<受付: 2006年1月6日>